情報モラル電子紙しばいシナリオ

青ずきんちゃん気をつけて

昔々、あるところに青ずきんちゃんという女の子がおりました。

青ずきんちゃんは、遠い町に住むお爺ちゃんが大好きだったので、毎晩スマートフォンのテレビ電話でお爺ちゃんとお話をするのを楽しみにしていました。

青ずきんちゃんは、とても可愛らしい女の子だったので、町中の男の子たちは青ずきんちゃんとお友達になりたいと願っておりました。

オオカミのタッ君も青ずきんちゃんファンの男の子でした。タッ君は青ずきんちゃんとお友達になりたくて様々な手段を使って、青ずきんちゃんのことを調べました。そしてついに青ずきんちゃんが毎晩おじいちゃんとテレビ電話で話をしていることを突き止めました。

タッ君は「これはチャンス」と喜びました。タッ君はパソコンやスマートフォンに詳しかったので。お爺ちゃんのユーザーＩＤとパスワードを乗っ取って青ずきんちゃんとお近づきになろうと考えました。

さっそくタッ君はあの手この手を使って、お爺ちゃんのユーザーＩＤとパスワードを乗っ取ると青ずきんちゃんとテレビ電話でお話をすることにしました。

タッ君：「青ずきんやこんばんは」

青ずきんちゃん：「お爺ちゃん、こんばんは。あれ？お爺ちゃん今日はいつもと声が違うんじゃない？」

タッ君：「風邪をひいたんだよ。青ずきんは今日も可愛いねぇ」

青ずきんちゃん：「早く風邪が治るといいね。あれ？いつもよりお耳が大きいね。」

タッ君：「青ずきんの声がよく聞こえるように大きくなったんだよ」

青ずきんちゃん：「お目目も変だよ。」

タッ君：「青ずきんの可愛いお顔がよく見えるようにコンタクトをいれたんだよ。」

青ずきんちゃん：「ふーん、変なの。」

タッ君：「そんなことより青ずきん。お爺ちゃんが、青ずきんの欲しがっていたピリキアのおもちゃを買ってあげよう。明日モラタウンで１０時に待ってるよ。」

青ずきんちゃん：「えーっつ、お爺ちゃん遠くに住んでるのに明日の１０時に間に合うの」

タッ君：「青ずきんのために今晩から出発するよ。じゃあ待ってるからね。バイバイキぃーーーン。」

電話を切った青ずきんちゃんは何だかおかしいぞと思って、ネットの相談窓口「ほっとネットライン」に相談してみました。

ホットネットラインの人は青ずきんちゃんにおまわりさんを紹介してくれました。誰かがお爺ちゃんになりすましているかもしれないので、念のためにおまわりさんと一緒に行くことになりました。

次の日、青ずきんちゃんがモラタウンで待っていると、タッ君が現れました。

タッ君：「青ずきんちゃんかい、その先の道路で君のお爺ちゃんが交通事故に遭って病院に運ばれたから僕の車で一緒に行こう。さあ速く。」

そう言うとタッ君は、青ずきんちゃんの手を引っ張って駈け出そうとしました。

タッ君：「おや？青ずきんちゃん君の手はえらくごつごつしているね」

おまわりさん：「そう、君を逮捕するためだよ」

タッ君：「えーーーーーーーっつ」  
振返ったタッ君は目玉が飛び出るほど驚きました。青ずきんちゃんの手だと思っていたのは、おまわりさんのたくましい手だったからです。

おまわりさん：「なりすましと誘拐未遂でたいほする」タッ君はおまわりさんにつかまってしまいましたとさ。

みんなもなりすましには気をつけようね。おかしいなと思ったら大人の人に相談するんだよ。

おしまい